

私が彼を殺した

東野 圭吾 著

TBS「日曜劇場」で4月から放映しているドラマ『新参者』の主人公、加賀恭一郎シリーズのひとつである本書。人形町を舞台にしたドラマは、事件の解決よりもそこに住む人々の日常生活、気持ちを読み解いていくところがおもしろくて、久しぶりに楽しみにしている番組で、本書よりも先に興味を持って見ていました。

本書は、婚約中の男性に裏切られた女性が男性の自宅で服毒自殺を図るところから始まります。その女性との関わりを隠そうとした果てに男性は殺害されます。容疑者は3人。事件の鍵は女性が残した毒入りカプセルの数とその行方……。容疑者も少なく、すぐに解決しそうなこの事件。しかし、容疑者それぞれの立場に立った男性との関係や愛憎が描かれ、事件を説明しようとすればするほど全員に殺人の動機があるんじゃないかと思つてきます。その上、カプセルの数と行方があっちにいつたり、こっちにいつたり。数字のマジックもあつて、あああ、分らない。でも、小説なんだから、読み進み最後は犯人は分かるかと安心していると、最後の一行、加賀は言った「犯人はあなたです」。えええ？ 誰？ 犯人はダレ？ 途方に暮れていると、袋とじで「推理の手引き」が付いているじゃないですか！ 読み進むと、この人かなあ、と思う人が推定できた。しかし、確定ではない。本書を手取るたびに、本当にあの人が犯人だったのかと。これが本当の推理小説？ なのかもしれない。

Y・C・



講談社文庫

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞